【重点テーマ②】地域産業を担う人材の確保・育成の推進について（キャリア教育）

資料１－２－１

地域共通の課題
- 人口減少や若者の域外流出に伴う地域の担い手不足
- 人材の需給ミスマッチ（事務職・文系人材の余剰、現場人材・理系人材の不足）

背　　景
- 就職時に長野県を選ぶきっかけとなる地元産業・企業に対する認知度の低さ

取組の方向性
- 子ども達へ地域産業・企業の魅力を伝える取組の一層の充実が重要（県内進学・就職、Ｕターンに繋げる）

＜県外進学の大学生等のUターン就職率（県労働雇用課調べ）＞

R3	R4	R5	R6
38.4%	36.5%	34.3%	34.3%

「信州未来共創戦略」における位置付け

戦略の柱	2050年にありたい姿	2030年に目指す旗	具体的取組例
【４－２】 多様な人材の労働参加と省力化を進めよう	若者・女性にとって魅力ある企業が増加し、ＵＩターンを含めて多くの方が県内での就労を希望している。	小中高校生が産業・事業所を知るための取組（就業体験、インターンシップなどを含む。）がすべての地域で実施され、参加事業所数を1,000以上とする。	小中高を通じて地域を知り地域に学ぶキャリア教育などの取組を充実

主な取組

団体名	職業体験等の取組	アクションプラン（キャリア教育関係）
長野県経営者協会	● 県内中学校・高校等での出前講座（職業観形成の講話等） ● 経営者による県内中学校・高校の授業等の視察・意見交換	人材育成：学校への出前授業、学校視察
長野県中小企業団体中央会	（大学生向け若手社員との交流会の開催）	（人材確保・定着・育成のための大学等との連携強化）
長野県商工会議所連合会	● 長野商工会議所：学校への出張授業（ものづくり体験講座） ● 塩尻商工会議所：地元企業と中学生が連携した商品開発　等	小中高校生が地元産業・事業所を知る取組への参加
長野県商工会連合会	● 職業体験の受入企業リストを作成し、市町村へ配布 ● 小学生を対象とした出前講座等	―
日本労働組合総連合会長野県連合会	● 子ども達へのものづくり体験講座の実施	―

【重点テーマ②】地域産業を担う人材の確保・育成の推進について（キャリア教育）

県アクション　将来の県内産業の担い手を確保するため、子どもたちが地域産業・企業の魅力を知る職業体験等の取組を支援

R7～

キャリア教育支援サイト「こどもキャリアラボながの」の運営

- 職業体験等の提供企業情報やキャリア教育の取組事例等を一元的に集約・発信するポータルサイトを構築（R7.8～）

「こどもキャリアラボながの」



サイト二次元コード

【掲載情報】
- **職業体験等の受入れ企業情報**
  約250件登録（R8.7末現在）
- キャリア教育の取組事例
- 産業展等のイベント情報
- 「信州ものづくりマイスター」の活用事例　など

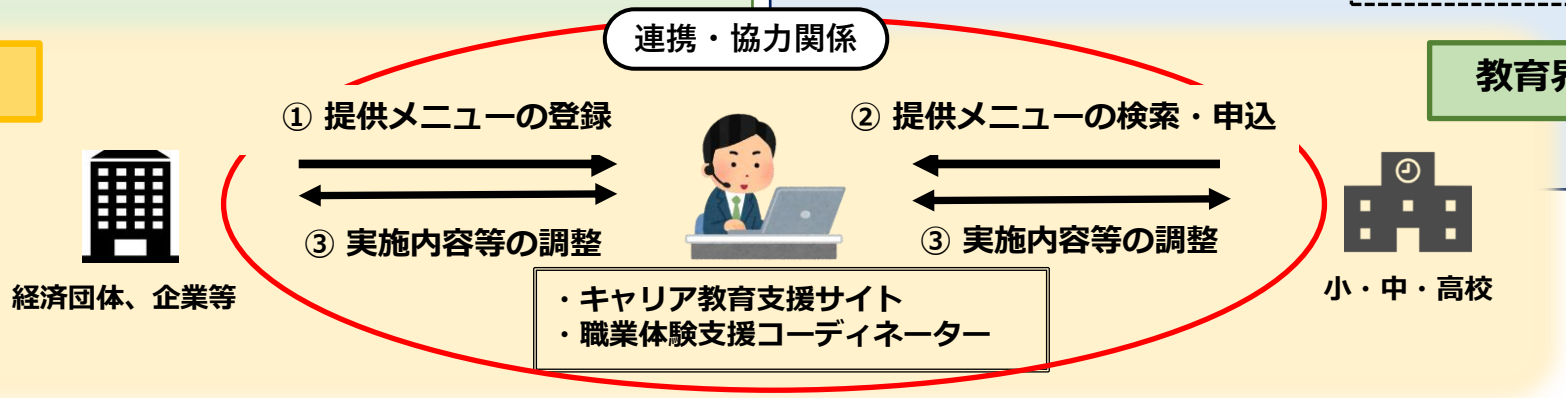
R7～

職業体験支援コーディネーターの配置（４名）

- 企業と学校をつなぎ、双方のニーズを踏まえたキャリア教育を推進する「職業体験支援コーディネーター」を配置

担当地域	氏名
北信	やまもと　だいすけ 山本　大輔
東信	ばん　みさこ 伴　美佐子
中信	ひらばやし　あきこ 平林　明子
南信	おりべ　いくよ 織部　郁代

【主な役割】
- 学校・企業との協力関係の構築、取組普及活動
- 企業・学校双方をつなぐマッチング支援
- キャリア教育の取組に関する相談支援
- キャリア教育支援サイトの運営　等



【重点テーマ②】地域産業を担う人材の確保・育成の推進について（キャリア教育）

産業労働部と教育委員会との連携事例

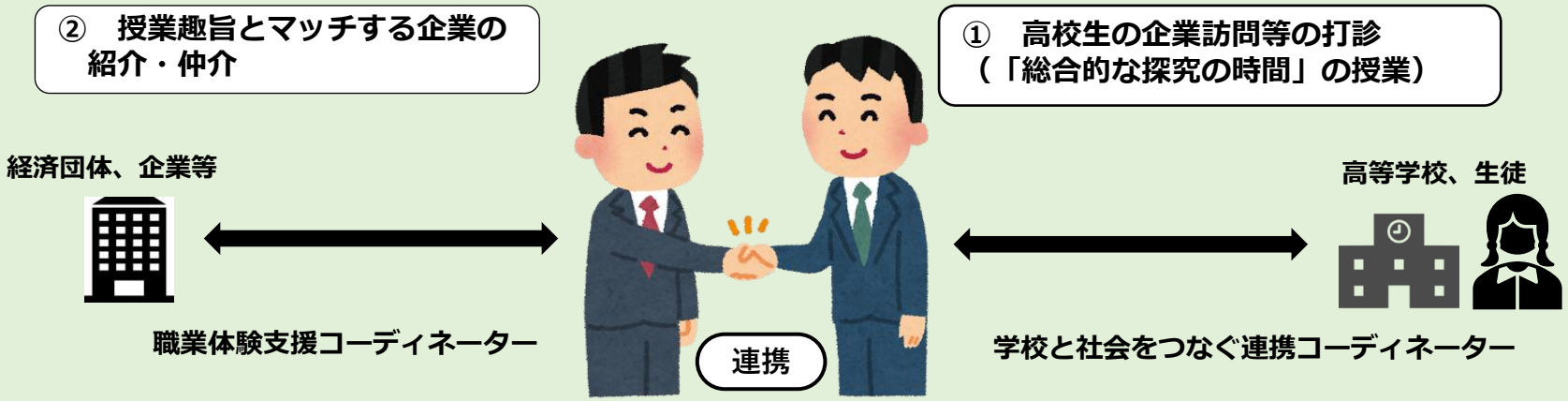
職業体験支援コーディネーターと、教育委員会『学校と社会をつなぐ連携コーディネーター』の連携について

『学校と社会をつなぐ連携コーディネーター』とは

- 社会教育法第９条の７第１項に基づき、教育委員会が委嘱する。
- 地域活性化につながる特色ある学校づくりと、それを核としたコンソーシアム構築の支援に取り組む。
- 高校側の窓口として、地元産業界との関係強化や授業における企業とのマッチング調整を行う。

R8の配置校・配置人材について

- 46校／77校（県立高校）において配置。
- 委嘱されている人材は、地元企業社長、市議会議員、教員OB、地域おこし協力隊員等幅広い。
- 各高等学校において配置を希望する人物を推薦し、それを基に教育委員会において委嘱する。



地域でのキャリア教育の取組事例

カテゴリー	【企業（行政・地域）主導型】	【学校主導型】
取組名称	**上伊那郷土愛プロジェクト**	**岡谷市「中学生メッセ」**
実施主体	上伊那広域連合	岡谷市立岡谷北部中学校
参画・協力団体	経済団体（16団体）、教育機関 （４団体）、行政機関（12 団体）、地域団体（４団体）ほか学生等	商工会議所、PTA、地域ボランティア
内容	**① 産学官協働事業** ・キャリア教育かみいな交流会（上伊那の人・組織の交流・協働） **② 次世代育成事業** ・学校支援活動（探究学習のサポート等の学校支援 ） **③ 情報発信・活用事業** ・冊子「Hi」作成等（地域の人・活動の情報を若者・団体へつなぐ）	**■「岡谷市中学生メッセ」の開催** **・市内全ての公立中学校（４校）の生徒が地域企業に触れるキャリアフェス** ・企業出展ブースを巡り、地域で働く人と交流（仕事への想い、こだわり等の就労観を語る）
特徴（工夫点等）	● **地域共通の課題（担い手不足等）に対して、地域企業・経済団体からの取組開始**（産学官の対話を重視した意見交換） ● **「つなぐ」をミッション**に、**子ども（小・中・高・大）から社会人までを横断的につなぐネットワーク型の事業** ➡**上伊那管内８市町村の多様な主体による連携** ● 学校の「地域を知りたい」と、地域側の「学生と一緒に考えたい」双方のニーズをマッチング	● 「地域への理解を深め、多様な大人との出会いを通じて、将来の歩み方を考える」ことを目的に、**大人との出会い・対話を重視** ● 市内の校長会と教育委員会が連携し、「キャリア教育委員会」を設立。**学校・行政の一体となる体制を整備** ● １校（岡谷東部中）の取組・想いから、R8には、**市全体（公立中学校４校）の連携・取組みに拡大** ※事務局を市内４学校で持ち回り
成果等	● 職業体験等に参加した生徒が、地元企業への就職や地域活動の「主体者」として活動**（地域の担い手を育む循環）** ● 10年間の取組実践により、**子ども、学校、家庭、地域、産業、行政の「次世代育成は、六方よし」**という文化の醸成	● 新規でキャリア教育に取組む参画企業が増加（R8は46事業所が参画 ※前年度から10増加） ● 地域全体で、将来の担い手を育む体制・機運

地域でのキャリア教育の取組事例

カテゴリー	【行政（地域）主導型】	【行政主導型】
取組名称	**塩尻市キャリア教育「共創共学プラットフォーム」**	**安曇野市中学生キャリアフェスティバル**
実施主体	塩尻市教育委員会 （運営：NPO法人MEGURU）	安曇野市教育委員会
参画・協力団体	商工会議所、中央公民館、社会福祉協議会、コーディネーター	企業・団体
内容	**■ 学校と地域・企業等をつなぐ「共創共学プラットフォーム」** ① **キャリア学習支援**（学校のニーズに柔軟に対応） ・企業見学、職場体験、対話型プログラム等で学校と社会をつなぎ、プログラム運営支援を実施 ② キャリア教育新聞（横のつながり強化） ・学校や地域の取組を紹介する情報誌の発行 ③ 総合的な学習の時間を中心とする**探究学習の支援** ・テーマ設定、調査研究での外部連携支援	**■「安曇野市中学生キャリアフェスティバル」の開催** ● **市内全ての中学１年生（７校）**が市内の企業等の出展ブースを主体的に巡り、仕事の内容＋働くやりがいを学ぶキャリアフェス（R8年度で３回目/50~60社程参加） ● 安曇野市が目指す重点的な教育施策の一つ、『地域の特色や魅力に触れることで、「郷土愛」を醸成』も開催の目的
特徴（工夫点等）	**【プラットフォームによる支援】** ◆ 相談窓口・学校ニーズに合わせた個人・事業所等のマッチング支援 ◆ 学校の相談内容に合わせたプログラム提供・共同開発 ➡ **多様な地域プレイヤーを巻き込み、「学びの循環」を創出**	● **市の中学生全員が地域産業・企業等を知る機会（場）を提供**（市主導で学校・企業等へ参加を働き掛け） ● 企業説明だけでなく、そこで働く大人の思い、働き方、夢や苦労等を語ることを大切に運営
成果等	**［学校］** 社会と連携した授業を展開でき、子どものキャリア形成に寄与 **［企業・個人］** 次世代育成への貢献、自身のキャリアを見つめ直す機会	●中学3年間でのキャリア学習スタートの契機とし、多くの学校の**2学年で実施する職場体験学習に繋げている**。 ●フェス実施後、**学校と企業が直接つながり、キャリア教育を実施した事例も多くあり**

地域でのキャリア教育の取組事例

カテゴリー	【学校・企業主導型】
取組名称	**須坂創成高校デュアルシステム**
実施主体	須坂市デュアルシステム協力企業会
参画・協力団体	須坂創成高校、地元企業（70社）、須坂市
内容	■ **須坂創成高校（創造工学科）デュアルシステムの実施** ● 学校での座学＋企業での実習 ・１年次：「地域の産業を知る」（企業見学） ・２年次：「企業で就業体験」（２～３日間の就業体験） ・３年次：「企業で実践的な実習」（週１日・計８日間実施）
特徴（工夫点等）	● **企業と学校が協働した地域人材の育成** （将来のものづくり産業を担う実践的な技術習得・職業観等の形成） ● 創造工学科に在籍する生徒全員が実施（**必須カリキュラム**） ● 須坂市（産業振興部）が事務局となり「デュアルシステム協力企業会」への地元企業の加入促進（約70社参画）及び、学校と企業の調整・受入企業への支援（実習マニュアル整備等）
成果等	● 実践的なものづくり技術や先端技術を学ぶことで産業人材を育成（**地元企業への就業に繋がっている**） ● 働くことの意義や役割、自己・将来のあり方について考えを深める

（県地域振興局の取組）

【佐久地域振興局】

○ **佐久地域で輝く企業・若者紹介ブックの作成（R7）**

・佐久地域の企業を紹介したガイドブックを作成・配布

【長野地域振興局】

○ **未来人材育成・社会科見学支援事業（R8）**

・社会科見学・地域を知る学習に、職業体験支援コーディネーターの支援を受け、職業体験を実施する小学校を支援

【北信地域振興局】

○ **地元高校生向け「学び」・「起業」支援事業（R8）**

・地元高校生の郷土愛を育み、就労観を形成する機会の提供（地元企業との交流等）

【重点テーマ②】地域産業を担う人材の確保・育成の推進について（キャリア教育）

■ 令和７年度各地域会議（意見交換）において抽出した課題（キャリア教育関連の主なものを抜粋）

キャリア教育の取組全般

- **若者の早期キャリア教育・体験が必要、キャリア教育の不足**
  （体験機会の不足・普通科の参加がハードル）
- **キャリア教育の体系化不足**
  ・**単発イベント化**、小中高で一貫した指導計画ではない
- 学校のカリキュラム確保等の事情によりキャリア教育の実施が難しい
- 高校ごとに企業ＰＲの場への参加に差がある
  （全校実施できていない）
- 企業・仕事の実像が伝わっていない、働くことのイメージが持てていない（就労観・職業観の形成）

企業と学校のつながり

- **小中学校の段階からのキャリア教育・企業との接点づくりが不足**
- **学校と企業の接続不足**
  ・【学校】企業情報不足
  ・【企業】学校との関わり方が分からない、高校との連携やその先の大学との繋がりづくりが不足
- **学校と企業の接点が「点」でしかない**
- **マッチング不足**
  ・企業情報の発信不足、周知不足、学生との接点不足
- 自治体・商工会・学校の連携が重要

企業情報の発信

- **職場体験の受入先開拓不足**
- 企業側の職場環境改善・魅力発信も不可欠、企業の魅力向上・発信の取組みが不足、企業の認知不足
  （地域企業を知る機会が不足）

その他（人手不足等）

- 人材が「そもそも足りない・戻ってこない」
  （工業系・設計・建設業人材の減少・人手不足）
- 若手人材の不足
  （少子化による採用減少、県外流出、保護者へのアプローチ不足）
- 若者に選ばれない
  （高齢事業者が多く、デジタル化が進まず、若者から選ばれにくい）
- 人材定着の弱さ
  （企業の受入環境整備不足、企業の学生に対する理解不足）

【 意見交換テーマ 】

● 地域のキャリア教育を一層充実したものとするため、地域ごとの特性・既存の取組を活かしながら、どのような取組・支援等が必要か。

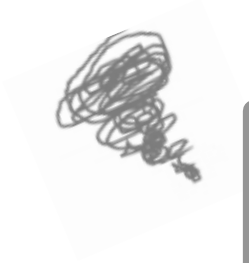
＜意見交換のPoint＞

・地域ごとに様々な取組が展開されている一方、取組の推進に当たり、様々な課題がある。
・諸課題の解決・緩和を図りながら、各地域におけるキャリア教育が地域の多様な関係者が参画し、一層の広がり・充実したものとするために必要な取組・支援とは。
・人材の需給ミスマッチの解消に向けて必要なキャリア教育の取組とは。
（地域に必要な人材を地域で育成するためのキャリア教育）

➡ 本会議での意見交換を踏まえ、今後の各地域振興局における「地域会議」でのキャリア教育をテーマとした意見交換や、各地域での取組促進につなげていく。

県立高校の魅力化・特色化

資料１－２－２



高校は点数で選ぶ／特色が分かりにくい

という当たり前を変える

「県立高校の特色化に関する方針」の策定

＆各校における魅力化の推進

「自分の進路に向かい学びたいことをとことん学べる」「社会に求められる技術・能力を得られる」
「地域とより深くつながる学び」「多様なニーズに合わせて学びと生活を両立」
という4つの方針のもと、県立高校の魅力化・特色化をつくる。

県立高校特色化推進事業の取組事例

高校生による県立高校の魅力化プロジェクト
（生徒起点：400千円／校・年）
生徒自らの企画提案でプロジェクトを行い、
各校の特色化と探究的な学びを深化



文化祭の合同開祭式！
松本４高文化祭スタートアップセレモニー
松本県ヶ丘高校、松本美須ケ丘高校、
松本蟻ケ崎高校、松本深志高校

県ケ丘は吹奏楽、蟻ケ崎は書道、
深志はダブルダッチ、美須々ケ丘はダンス
で文化祭を盛り上げ、4高で青春を謳歌

地域や地元小学生と一緒に課題解決。
サル柿合戦プロジェクト
富士見高校

地域や小学生とともに、放置竹林を整備。
サルによる鳥獣被害を防止するため
サルよりも早く柿を収穫する等、
楽しみながら地域課題に取り組む



特色化スタートアップ事業
（教職員起点：342千円／校・年）
地域のニーズ把握や研修、視察等を行い、
特色化推進力を強化

国公立大の進学実績のある他県の工業高校から、教育課程・進路指導を学ぶ
松本工業高校

科を横断した生徒同士のつながりの作り方、
募集方法や学級編成の方法が参考になった

離島全体を教育資源とした探究の取組や遠隔授業の取組を学ぶ
蘇南高校

積極的に地域に関わり、地元の課題に自ら
気づき、自分ごととして探究を進めることが大切

酒米づくりの栽培から販売までの一連のプロセスに関わる取組を学ぶ
更級農業高校

本県の県立高校の更なる魅力化・特色化に向けて

学校ごとの特色を磨く

長野県教育委員会では、 地域との連携・共学共創　の取組を通じて、
県立高校のさらなる 特色化 を進めています！

特色1　様々な選択肢から、自分の進路に向かって学びたいことをとことん学べます

この特色に取り組む高校に入ると…
希望する大学への進学を実現できます！
自分の学力や希望する進路に適した授業を自分の希望する進度で受講できる単位制を導入することで、夢の実現に取り組めます。

特色2　社会に求められる技術・能力が身につきます

この特色に取り組む高校に入ると…
将来の職業選択に役立つ技術・資格を取得できます！
自分の興味や強みをベースに、地元企業や大学等と連携し、高度で実践的な技術・能力も磨くことで、多様な場で活躍できます。

特色3　長野県のリソースを使った地域での学びができます

この特色に取り組む高校に入ると…
地域とより深くつながる学びの中で やりたいことを発見できます！
自分のやりたいこと・なりたい自分を、地域住民・企業・大学等と密接に連携した学びの中で発見できます。

特色4　一人ひとりの個性や多様性が尊重されます

この特色に取り組む高校に入ると…
多様なニーズに合わせて 学びと生活を両立できます！
自分のライフスタイルや打ち込みたい活動を尊重した学校生活を送る中で、自分の様々な可能性を見出せます。

長野県の県立高校は部活動にも全力です

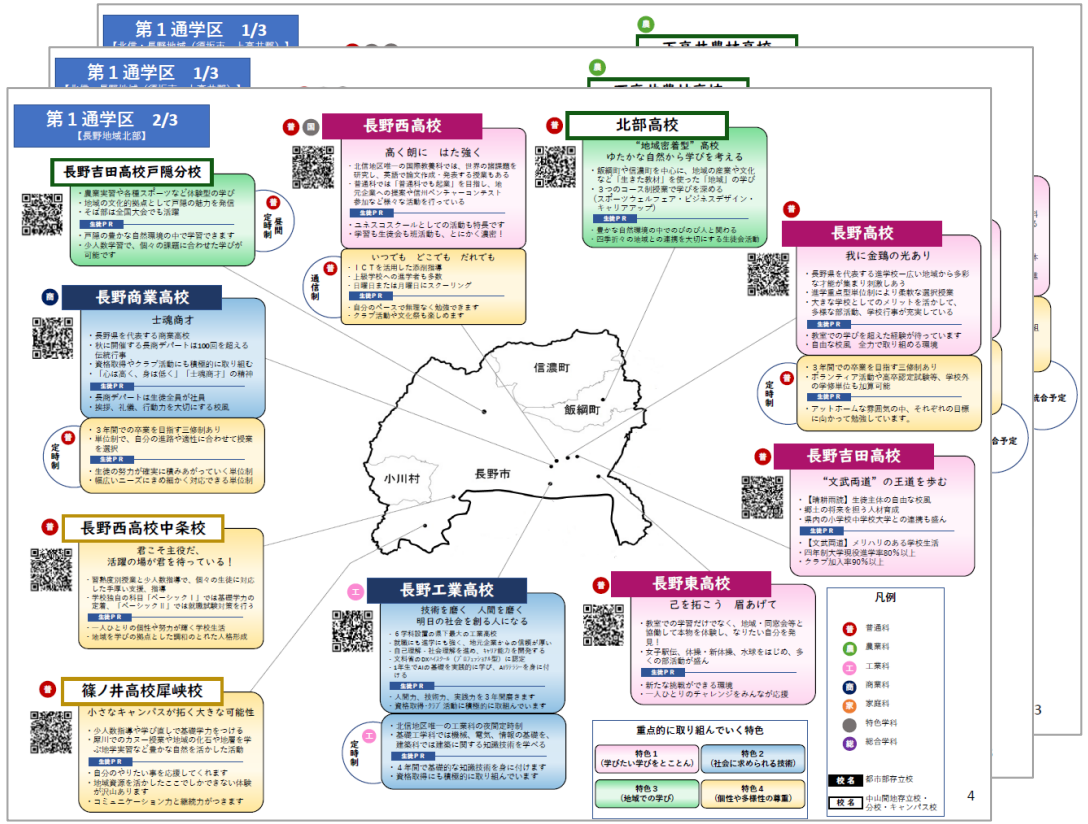
全国レベルで活躍している部活たち

運動系：スキー・スケート／女子長距離・フェンシング／バドミントン・卓球

文化系：書道・バトン・チアリーディング／吹奏楽・放送

etc…

一人ひとりの学びたいを叶える県立高校の特色とその配置



＋ 共通視点を磨く

例）
世界で活躍できるグローバル人材の育成
英語、AI　等

高校を取り巻く環境の変化

生徒の減少

中学校卒業予定者数は、2026年の17,587人から
2040年には10,261人へと、約42%減少

需要の変化

2040年には全体で22.2万人の人材不足が見込まれ、
専門職は7.8万人・現場人材は17.7万人が不足
する一方、**事務職は3.7万人余剰**となる職種間ミスマッチ

供給の偏り

県立高校入学者数は普通科8,109人(69.2%)に対し、
農業科811人(6.9%)、工業科1,136人(9.7%)
にとどまり、2040年の県内産業を担う専門人材が決定的に不足

人材不足－22.2万人は、全国で2番目

現場人材不足－17.7万人は、全国で4番目

事務職の余剰＋3.7万人は、全国で26番目

出典：2040 年の就業構造推計（経済産業省）

山に囲まれた広い県土で、地域に根差した産業や多様な文化を有する本県において
県立高校が果たすべき役割は大きく、

選ばれる県立学校となるための更なる発展が不可欠

国のグランドデザインと３つの類型

＜視点１＞AIに代替されない能力や個性の伸長

- 義務教育の成果を更に発展させるとともに、**知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成。**
- AIに代替されない能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、他者と協働する力等）の育成、探究的な学びや実践的な学びへの学習観の転換、**主体的に学び人生を切り拓く「生徒を主語にした」教育を推進。**
- イノベーション創出に向けた「新たな知」を生み出すため、生徒の「好き」を育み、「得意」を伸ばす多様な経験を通じた、**生徒一人一人の能力の伸長、主体性の涵養が必要。**

＜視点２＞ 我が国の社会・経済の発展を支える人材育成

- 2040 年には、いわゆる文系人材の余剰、いわゆる理系人材の不足、地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足が懸念。**産業イノベーション人材育成の必要。**
- グローバル化も進展する中、こうした人材への国際的な資質・能力の涵養や、世界で活躍できる人材の育成も重要。
- AI 等によって社会全体が大きく変わり、従来の進路選択の見方が必ずしも妥当しなくなりつつあるとの危機意識を共有し、進学希望者の理解、保護者や学校関係者の意識改革が必要。
- **新時代を担う人材を育成するための高校の特色化・魅力化**が必要。

＜視点３＞ 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 少子化が加速する地域における**高校教育の維持や学びのアクセスの確保が必要。**
- 不登校児童生徒、特別な教育的支援や日本語指導を必要とする児童生徒の増加、通信制課程の生徒の大幅増加を踏まえ、高校のいずれの課程でも柔軟で質の高い学びの選択肢の保障が必要。

３つの類型に共通する観点

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

理数系人材育成支援

多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

放課後等を活用し、**学校と地域の連携による学力向上・学習支援のための取組**等を実施

N-E.X.Tハイスクール構想に向けた高校支援

令和8年2月13日公表
国の
高校教育改革に関するグランドデザイン策定

令和8年度
都道府県 実行計画策定
総合教育会議等を活用し、地域別就業構造の推計や人口の将来推計等を踏まえて検討。首長、関係部局、大学、地域の関係者や産業界との連携・協働を図る。

令和9年度
安定財源を確保した上で、
交付金等の新たな財政支援の仕組みの構築
基金の執行状況等を踏まえ、R9年度予算の編成過程で検討。

※交付金等の構築に先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、N-E.X.T.ハイスクール構想の実現のために、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校（改革先導拠点）を創設。

新しい学校のイメージや取組例

専門高校の機能強化・高度化（アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等）

（学校のイメージ）
地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

（取組例）
- ✓ ビジネス経験の必修化
- ✓ ものづくりから流通まで一体的な学びの実践
- ✓ 「高校版企業寄附講座」等の実践やそれを前提とした進学・就職機会の確保

普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化（文理の双方の素養を有する人材の育成等）

（学校のイメージ）
文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

（取組例）
- ✓ 実社会につながる生きた授業の実践
- ✓ 高度実験環境を核とする理数探究拠点整備
- ✓ 探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築

地理的アクセス・多様な学びの確保

（学校のイメージ）
学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

（取組例）
- ✓ 学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保
- ✓ 学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供
- ✓ 他の学校種との連携の充実

これらの取組の一環として、留学支援を含むグローバル人材育成支援や、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援などについて取り組む。

2040年までに達成を目指す目標

【職業教育の高度化・魅力の強化関係】
・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校：100%
・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準

【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】
・文理横断的な学びに取り組む普通科高校：100%
・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合：同程度

【多様な学びの確保関係】
・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上
・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

本県の県立高校の更なる魅力化・特色化に向けて

「生徒一人ひとりの学びたいを叶える学校」づくりを進めるため、生徒の意見を生かし、地域の方々と共に、県立高校の特色化をさらに強化する。

各校では「特色化に関する方針」で定めた４つの視点による特色化を推進



令和７年度
（令和８年２月13日公表）
国の
高校教育に関するグランドデザイン
の公表

県教育委員会では、長野県の課題を踏まえ、特色化を先導する高校改革先導拠点校を指定し、特色化のパイロットケースを創出する。
各類型１校程度（県内で４校を指定）
【期間　令和８年度～10年度】

令和８年度
県の
実行計画
の策定

令和9年度　県の実行計画に基づき国が安定財源を確保したうえで、**交付金等の新たな財政支援**